

甘さを振り払って必死になろう

昨日は三年生の実力テストがありました。いよいよ高校見学会やオープンスクールも本格的になってきます。三年生にとっては進路の足音が次第に大きくなってくる時期ですね。

朝の様子を確かめようと、三年生の教室の前を通った時です。二名の男子生徒が廊下で主任のK教諭から指導を受けていました。邪魔してはいけないと思ってその時はスルーしましたが、気になったので、後からK教諭に何を話していたのかと尋ねてみました。

私の予想は当たりました。この時期に主任があのような表情で生徒たちに話すことは進路に関係することだなと思っていました。進路は受験当日だけではありません。生徒にとってどういう進路が最も望ましいかを、私たち教師は生徒自身と保護者の意向を最優先させて考え、そのためのアドバイスや情報提供を日常的に心がけています。

現在は、高校見学会やオープンスクールなどの参加者を集約したり、参加する生徒が安心して臨めるように、全ての高校の情報をもとめたりしています。生徒たちが高校に足を運ぶときには、私たち教師はミスや伝達漏れがないように万全を期しているつもりです。

進路について不備なく進めるためには、時間的な余裕が必要です。進路に関するものを回収するときには、集まったものを見て点検したり集約したりする時間が必要です。したがって、締め切りを設定しても、提出はできるだけ早くしてもらいたいというのが正直なところです。締め切り過ぎてからの提出があっても、生徒を見捨てるわけにはいきませんので受け取りますが、そういう時間的余裕のなさが、ミスや不備につながってしまいます。

指導を受けていた生徒は、再三の声掛けにもかかわらず、締め切り日を過ぎてても進路に関する提出物を出さなかったようです。自分の進路について自分が必死にならなければならぬ状況であるにもかかわらず、その様子が見られないことが納得いかなかったのでしょうか。K教諭は主任として諭すように指導をしていました。

「自分の進路は自分で切り開く」と言いますが、実際は違います。確かに、自分で実力をつけて合格を勝ち取らなければなりません。しかし、その前に、周りに支えられていることを自覚することが必要です。

本人の努力と周りの支えがあって、初めて進路は実現します。そして、その周りには、本人が努力を積み重ねる事実が何よりの報酬です。甘さを振り払って必死になりましょうよ。今がまさにその時です。

(十月六日 記)